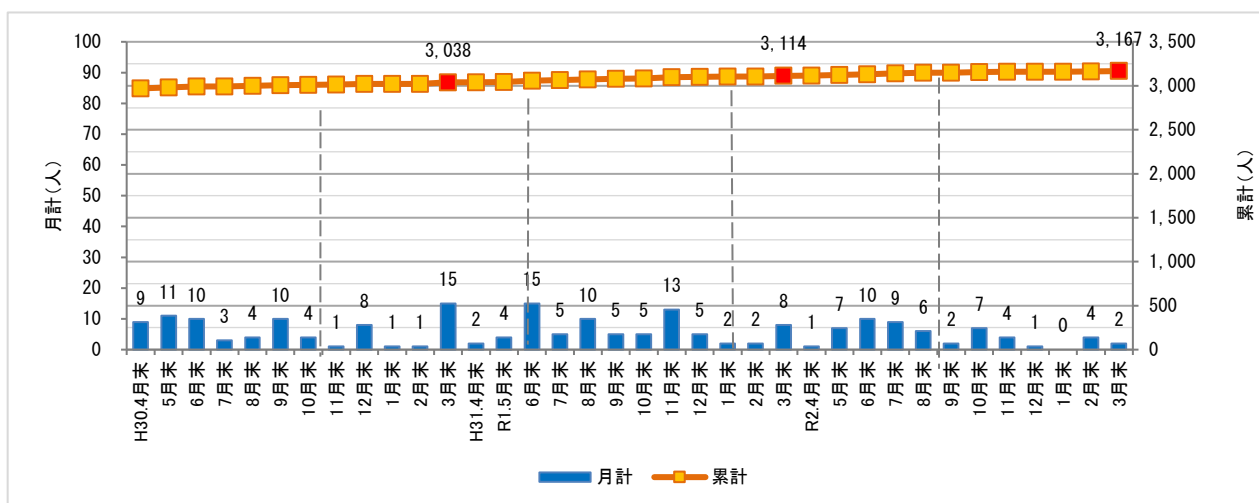


中井町オンデマンドバスの利用状況等について

1. 登録者の状況

登録者数については、令和3年3月末時点で3,167人となっており前年同時期と比較すると53人増加している。高齢化率の上昇に伴い、今後も増加傾向が予測される。

ただし、すでに亡くなっている方等の、登録者数の精査が必要である。

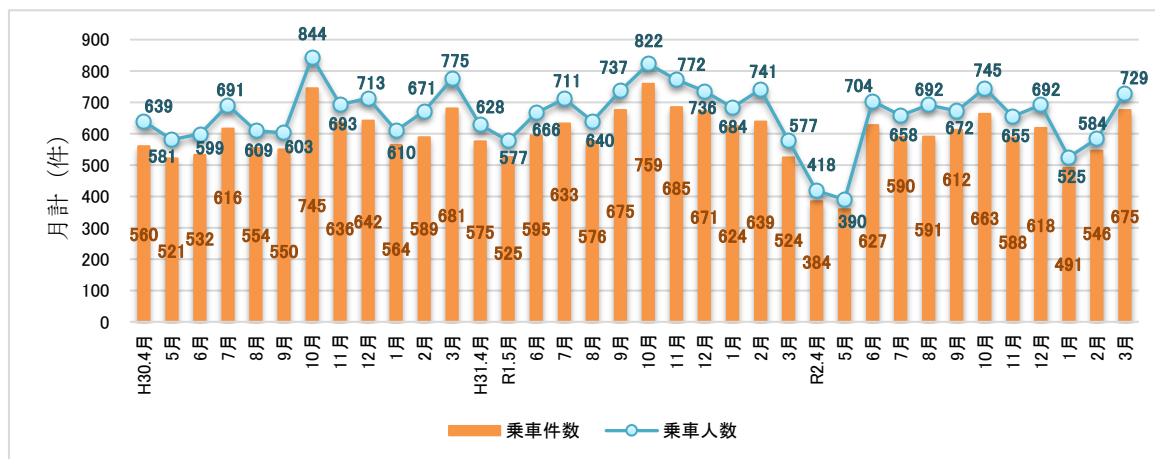


■ 図1 登録者数推移

2. 利用状況

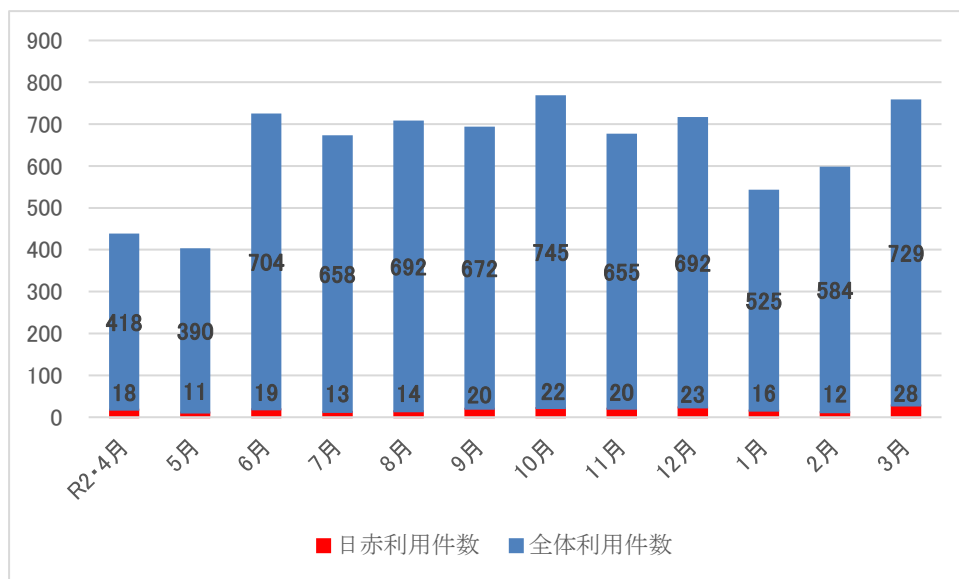
乗車件数及び乗車人数の推移(図2)については、平成30年度は乗車件数が7,190件、乗車人数が8,028人、令和元年度は乗車件数が7,481件、乗車人数が8,291人と共に増加傾向であった。

令和2年度は秦野赤十字病院への運行を開始したが、新型コロナウイルス感染症が流行しだした令和2年3月及び緊急事態宣言が発令された4月及び5月の件数が大幅に落ち込んだため、乗車件数が6,744件、乗車人数が7,464人と前年を大きく下回った。



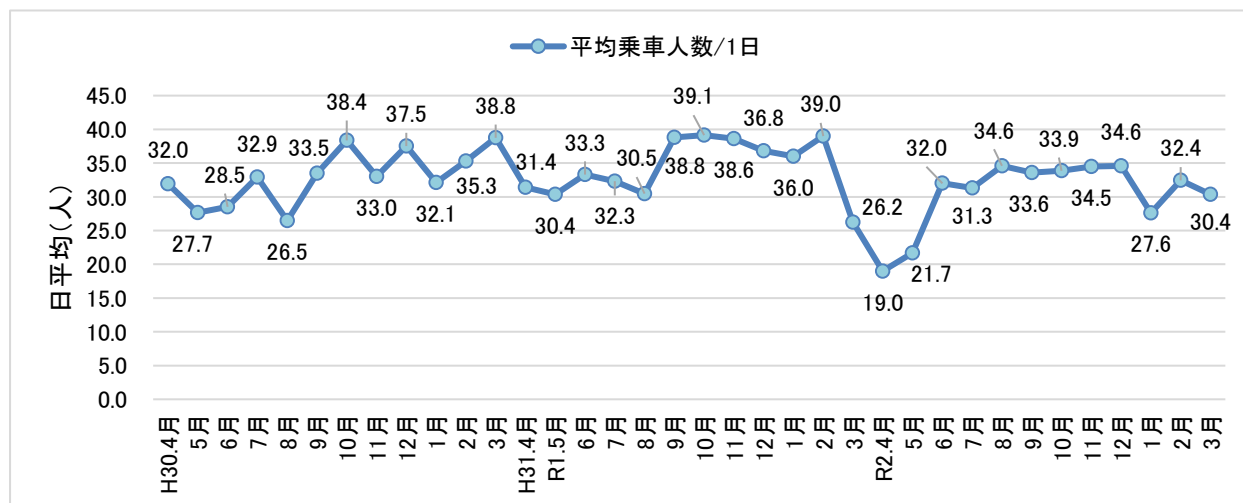
■ 図2 乗車件数・乗車人数の推移 (H30.4月~R3.3月)

令和2年度から再開した、秦野赤十字病院への利用状況（図3）については、月平均で18件程度の利用となっており、全体の利用件数の約3%程度の利用率となっている。



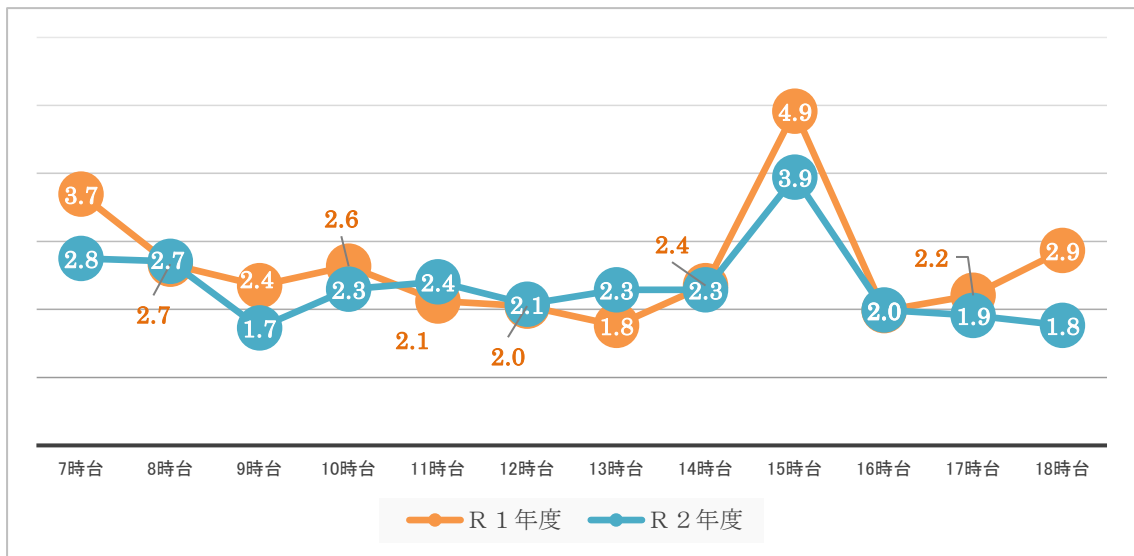
■図3 日赤利用件数と全体利用件数

前ページのとおり、ひと月の乗車人数はコロナ禍の影響もあってか令和2年度は減少傾向であるが、1日の平均乗車人数の推移（図4）については、令和2年の3～5月を除けば、20人代後半から30人代半ばを推移しており、概ね横ばい傾向を示している。



■図4 1日あたりの平均乗車人数の推移（H30.4月～R3.3月）

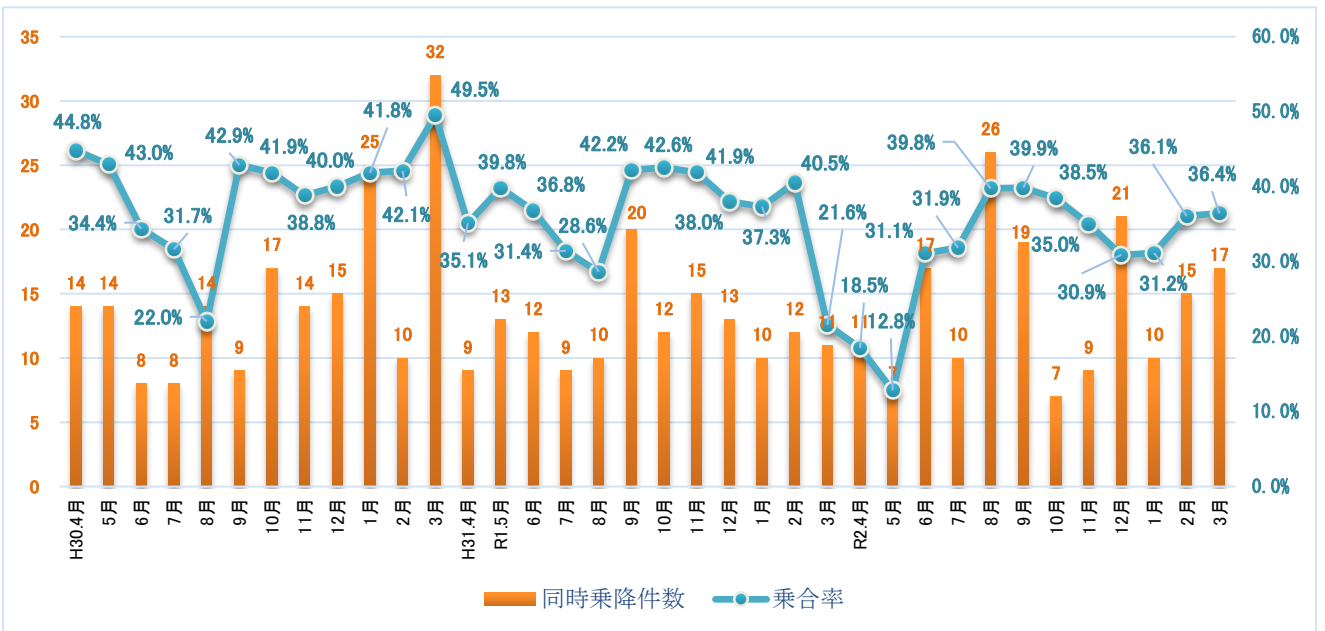
時間帯別の利用者数の状況（図5）については、7時台及び15時台の利用が多く、傾向としては令和元年度、令和2年度と同様の傾向であった。



■図5 時間帯別平均利用者数の状況（R1、R2の比較）

同時乗車件数と乗合率の推移（図6）については、利用者には乗合利用を推奨しているものの、横ばいもしくは若干の減少傾向である。

また、1台の利用人数については、乗合時に最も多いのが2名乗車であり、今後控える車両更新では、これらを考慮する必要がある。



■図6 同時乗降件数と乗合率の推移（H30.4月～R3.3月）

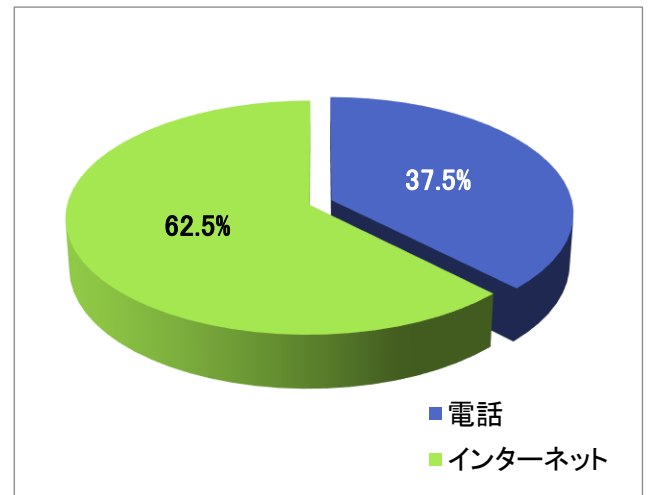
3. 予約状況

予約方法の状況（図7）では、インターネット予約が約6割と半数以上を占めているものの、依然として約4割程度の利用者が電話予約を利用している。

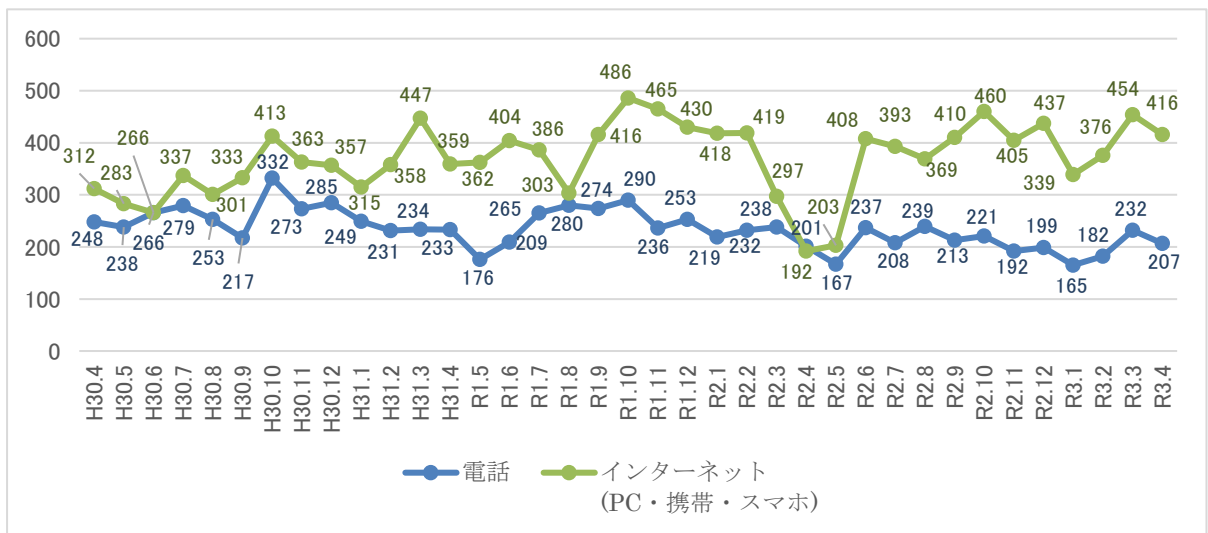
月別予約方法の推移（図8）では、インターネット予約は増加傾向、電話予約は若干の減少傾向にある。

しかし、年代別でみる予約方法では、電話予約が60歳代で約6割となっており、70歳代、80歳代については、約9割以上となっている。

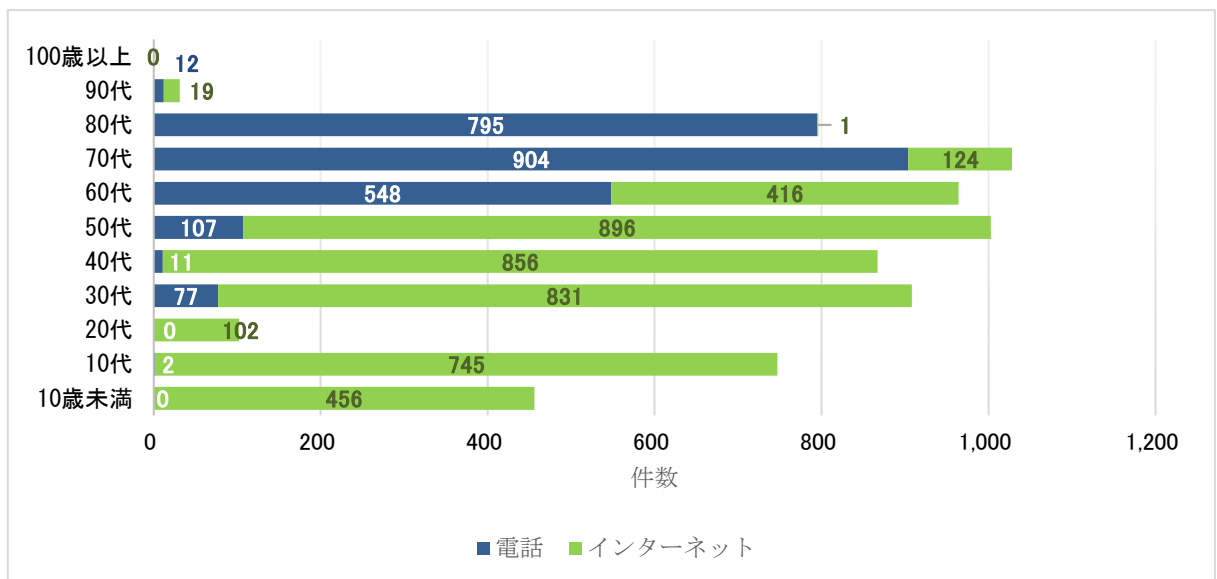
しばらくの間の予約方法の割合については、同程度の割合で推移していくことが予想される。



■図7 予約方法の状況（H28.4月～R3.4月）



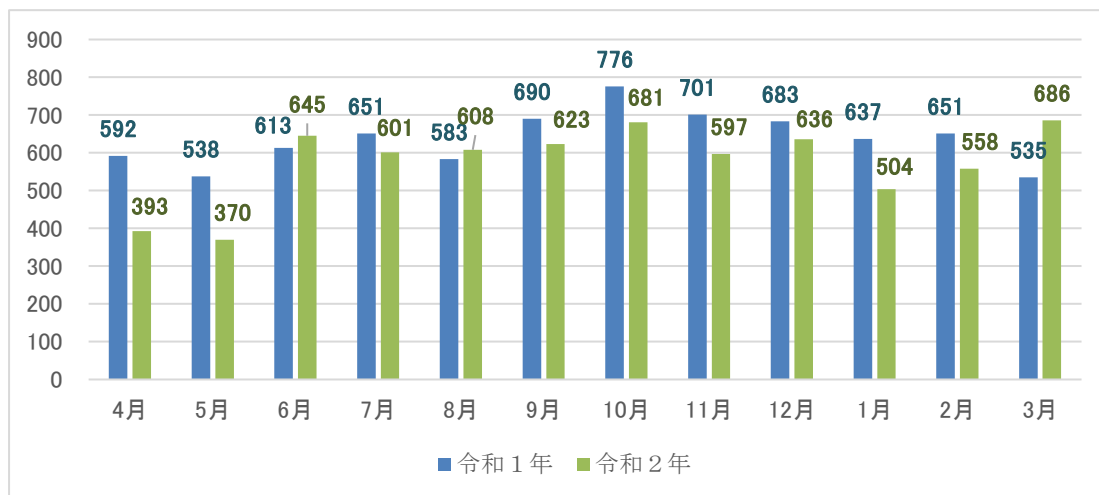
■図8 月別予約方法の推移（H30.4月～R3.4月）



■図9 年代別予約方法（R2.4月～R3.3月）

予約件数は概ね1ページに記載の利用状況と比例しており、令和2年度の予約件数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和元年度を下回っている。

しかし、月別予約件数の比較(図10)のとおり、コロナ禍においても前年を上回る月もあり、現在の中井町オンデマンドが生活の足として定着してきているのではないかと考えられる。



■ 図10 月別予約件数の比較

年間の実利用者人数は、

H29 290人、H30 233人、R1 213人、R2 180人となっている。

令和2年度はコロナ禍であることから、参考数値となるが、平成30年度から令和元年にかけて、利用件数は増加しているが、実利用者数は減少している。

1人当たりの年間利用件数は、H30で34.45回、R1で38.9回と増加傾向である。

これらのことから、リピーターが増えていることとなるが、交通弱者と言われる方々が日常の足としてオンデマンドバスが定着してきたともいえると考えられる。